

岩屋通信 第七号

今年も早いもので既に三月が過ぎようとしております。すっかり前号から岩屋通信の発刊が遅れて申し訳ありません。今年も少し頻繁に発刊できるよう努めてまいりますのでよろしくお願い致します。

この三月から四月にかけては、大人は人事異動、子ども達は卒業、就職、進学などになにかとあわただしい季節でもあります。

この長崎北海道でも次の方々の動きがありました。皆さん、これまでと環境がガラリと変わり慣れるまではたいへんでしょつが合気万生道で培った経験や自信を糧にして頑張ってください。

- 平井さんー本原交番兼運動
- ・浦上君・小西君 中学校卒業・進学
- 濱田悠太君、下川君、山下君、田崎陽月さんが小学校卒業 進学

それぞれの方々達の新たな抱負や詳しいことは、道場で暖かい励ましの言葉とともに、会員の皆さんから直接声をかけてやって下さい。

あらためて、会員の皆さんにおかれては、健勝のことと存じます。

お陰さまで北海道は平成十四年七月に発足以来順調に会員も増えつつあり、少年部も含めて一般会員約三十五名、幼年部(小学生まで)も十五名に届くつかという状況です。

今後ますます会員の増加が予想される一方で、会員相互の技の研鑽、礼儀作法など内面的な心の修養などが一層大切になってくるものと思われまが、役員だけではこれらの指導の役目はなかなか手が回らない面も出てくるものと思われまが、一般の会員の方々も北海道場の会員であるという誇りと自覚を持

って道場の運営に協力しながらますます精進していくことを節にお願いします。

自分が会員として協力できることは、小さなことでも何でも結構です。一例を挙げると不慣れな子供の着替え応援、あるいは最近日本古来からの言葉で「もったいない」といふことが世界的にもたいへん注目されているようすが、外のトイレのライトあるいは換気扇のスイッチ切り等々、(ですね)

そこで、今回の岩屋通信では少し内容の趣向を変えて、浜田道場長が忙しい消防署の勤務の合間に日々書き留めていることを紹介してみたいと思ひます。

内容的に学生諸君には少し難しい記述もあるかも知れませんが、じっくり何回でも読むことにより、合気道の呼吸力と同じで少しずつ自分のものになっていくかと思ひますので、精読してみてください。

「禅と合気道について」

今日(平成十七年四月十八日)夕方近所の高校時代の担任であった富永先生に、ツタリ会い、近所といつても久しぶりであり、お互いびっくりした。

先生は後数年で退職を迎えられることになる訳だが、非常に忙しい身でありながらも本を読んだり、フォーキングをしたりして絶えず自身を成長させるための自己啓発を怠らない人である。

先生は座禅をされており、以前大分この座禅のことについて教えを受け、時には具体的に座禅のやり方についても教示してもらったり、一緒に山に登ったりで色んな思い出がある。

先生の座禅の取り組み方はただ単なる趣味ではなく、その趣味の範疇を超えた人間が生きるための必要性や目的を果たすことを目指されておられる。

本当にすごい方だと思っいる。

そこで、禅と合気道について考えてみたいと思う。

先生が曰く、「人間社会においては、人から馬鹿にされたり笑われたりすることも必要であり、またそうしたこととをされても平然としていることが大切である。皆が、切れるばかりであれば世の中が非常におかしくなってしまう。だから人から馬鹿にされたり笑われたりする人も今の時代に必要なのである。」また、「座禅も日常の動きの中にあるのであって、一日の様々な場所において呼吸を整えることを行っている。そして、口論しても決して結論を判ついても早く言わず、相手に言わせる。このことは自分から相手が間違っている、その否を責めず相手がその間違いに気づき、相手によつて是正をさせる。結局自分は何もせずただ呼吸を整え

ているだけである。また、人様の役に立つことこそ、禅の心である。「とじつことであり、まさに、合氣道と通じることろがあり、非常に勉強になった。

よく「合氣道は動く禅」と言う人もいるけど、しかし禅のことをよく分かった上で言っているのかどうか疑問である。

それは、先生も禅を始めてだいたい計算すると三十年以上なられると思うが、この長い間には禅を組んだり、多くの書物を読んだりして一生懸命やられている。日蓮上人、道元禅師など様々有名な人達の話がでていることからも明らかかなように、決して生半可な精神でしておられないことが伺えらる。

合氣道をしながら禅となると絶対、今の時代においては困難であり、合氣道を分けるまでもに相当の時間と

稽古量がかかることは皆周知の通り。

したがって、「合氣道は動く禅」とは言えないのである。ただ言えることは、「到達するところと同じなのかもしれない」といつことである。

それは、富永先生と砂泊先生が言っていることは、何か同じように聞くと、結局、禅も合氣道も「社会生活をしていく上で人の役に立つこと、常に呼吸を整え何事に対しても動じないこと」などであるからである。

合氣道の稽古の始や最後は「黙想」といつことで禅をする。合氣道のみでなく剣道、柔道、空手などの日本武道は決まって多少なりとも禅をする。

それは、自分自身の気持ちと精神の安定を図るために行われていることだと思う。

「禅と合氣道」それぞれ道は違っても、先生の生き

様や教えなどは決して時代に反しておらず、また、合氣道の教えも前述するように「相手と一体になること、社会の役に立つこと。」等であるため禅とつながりがある。

そうしたことから、到達することは同じであると思われる。しかし、どちらとも奥が深いため比較はできない。それぞれ認め合いそれぞれの意見交換をすることにより、今行っていることに対して繁栄できると思う。

以上「禅と合氣道」について現在の心境を述べてみたが、これは中身がなく表面上であるため、すべてについて述べるのは、まだまだ修行不足なところがあり、不可能である。

しかし、「禅と合氣道」の精神は、人のために尽くすことが最も大切であることを強調しているため、社会生活上忘れてはならないものと感じられる。

ほんの僅かの立ち話であった先生との会話も面白く、先生が「お互い年をとったなあ」といつことを別れ際に言われ、「そうですね。しかし先生は若い。」といつことでそれぞれが笑顔でまたの再会を願った。

まだまだ編集者の野瀬の方で浜田道場長からたくさんの手記を預かっておりますので、次号も楽しみにして下さい。それと共に、感想などもどんどん浜田さんに言っておさい。稽古の合間などにこのような話題をもとにして話すことが合氣道をしていく上でも素晴らしいことだと思います。

《連絡等》

四月の熊本での有段者交流研修会は、十六日(日)正午、今回は研修前に神事があるため手取神社内にある本部道場です。

なお、その次、五月は十四日(日曜日)が本部の演武大会となっており、当北道場にも二組の出場依頼が来ておりますので、また参加できる方の指名を調整させていただきます。

その翌週の五月二十一日は有段者交流研修会です。立て続けで何かと忙しいところですが、万障お繰り合わせの上多数の出席をお願いいたします。

そろそろ平成十七年度の決算と十八年度の予算案決めるための総会の季節となりました。日程等決まりましたらお知らせしますので多数のご参加をお願いします。

また、子どもの会員もだいぶん変わりましたので、春のレクリエーションをしたいと思います。

村里さんが、日頃の精進と寺井さんのご指導の賜物で居合道初段になられました。おめでとうございます。